

## 国債の利回りの差から見る、円・米ドル相場

Raku  
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am  
fund academy

円の対米ドル相場が、15年ぶりとなる高値水準となっています。

世界的な景気回復の鈍化懸念から、投資マネーの逃避先として円が買われていることに加え、日米国債の利回り格差(米国国債利回り-日本国債利回り)の縮小も影響しているとみられます。10日のFOMC(連邦公開市場委員会)において、FRB(連邦準備制度理事会)が景気判断を下方修正し、景気浮揚策の一環として、米国債の購入を決定したことから、FRBによる米国債購入が米金利のさらなる低下をもたらすとの観測が浮上しています。そのため、日米の利回り格差にはなお縮小余地があるとみられているようです。

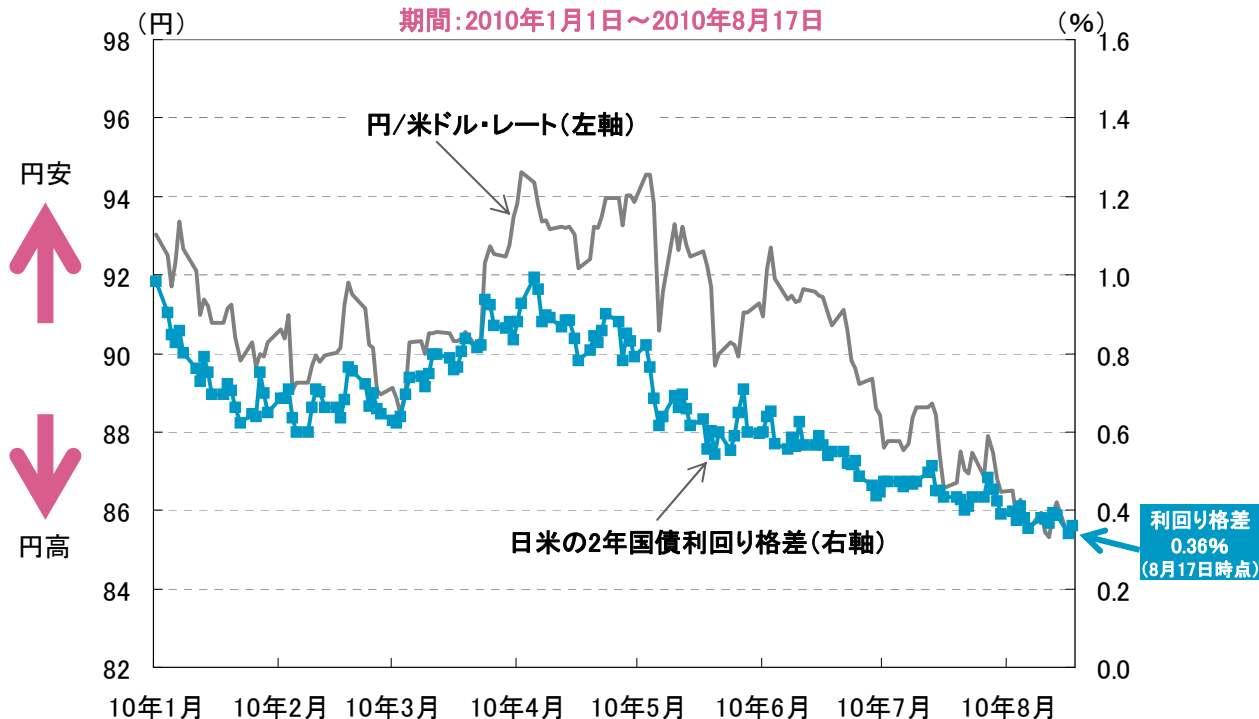
円・米ドル相場との連動性の高さで注目される日米の2年国債利回り格差は、4月初めの0.99%程度から昨日には0.36%にまで低下しており、円・米ドル相場も4月以降、円高傾向が進んでいます。

ただし、4月初めには1.1%台半ばだった米国の2年国債利回りは、既に0.5%を割り込む水準にまで低下してきており、日米の利回り格差がこれまでのようなペースで縮小していくとは考えにくい状況です。

依然として、米国景気や世界経済の先行き不透明感が強いことから、投資家のリスク回避傾向が続き、円が選好される地合いが続く可能性はありますが、日米の利回り格差からは、円・米ドル相場がここから急速に円高方向に進行する状況にはないといえそうです。

### 円・米ドル相場と日米2年国債利回り格差の推移

期間:2010年1月1日~2010年8月17日



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。